



株式会社 立花エレクトック

C.C.J2200 100th Anniversary in 2021

**変革・挑戦・飛躍**  
*Change, Challenge, Jump-up*

**個人投資家向け  
会社説明会**

東証1部 証券コード **8159**

2018年9月12日

# 目次

- **会社概要** p.2
- **2019年3月期 第1四半期決算概要** p.11
- **2019年3月期 業績予想** p.13
- **配当金、株主優待、株価推移等** p.15
- **2019年3月期 取り組み方針** p.18
- **人基軸経営** p.23
- **ご参考 中長期経営計画『C.C.J2200』** p.27

# 会社概要

社名	株式会社 立花エレテック	証券コード	8159 (東証1部)
創業	1921(大正10)年9月1日	発行済株式数	26,025千株
代表者	代表取締役社長 渡邊武雄	株主数	7,038名
本社所在地	大阪市西区西本町 1-13-25	大株主	三菱電機 サンセイテクノス KBL EPB S.A. 107704 三菱東京UFJ銀行 日本トラスティ・サービス信託
資本金	58億74百万円		
従業員数	単体 804名 (連結 1,280名)		
連結売上高	1,783億24百万円 <18年3月期>		
事業内容	産業用電機・電子の商品、システムを販売する技術商社		
事業所	支社:東京、名古屋 支店:13 営業所:2 物流センター:1		

\* 国内、海外子会社は次ページ参照

[2018年3月末現在]

## 国内 6社

研電工業(株)

(株)立花宏和システムサービス

(株)テクネット

(株)大電社

(株)立花デバイスコンポーネント

(株)高木商会

## 海外 8社

立花オーバーシーズホールディングス社 (TOH)

タチバナセールス(シンガポール)社

タチバナセールス(香港)社

台湾立花股份有限公司

立花機電貿易(上海)有限公司

タチバナセールス(韓国)社

タチバナセールス(バンコク)社

タチバナセールス(インドネシア)社



# 沿革概要

- 1921年9月** 電気関係製品の卸売業と電気工事業を目的として創業
- 1944年8月 電気工事部門が母体となり近畿電気工事(株)(現きんでん)設立
- 1947年7月 三菱電機(株)と特約店契約を締結
- 1948年7月 (株)立花商会設立
- 1962年3月 三菱電機(株)と代理店契約を締結
- 1982年8月 シンガポール駐在員事務所開設(海外進出)
- 1986年5月 大阪証券取引所市場第二部特別指定銘柄(新二部)に上場
- 1990年9月 大阪証券取引所市場第二部銘柄に指定
- 2001年9月** (株)立花エレテックに商号変更～創業80周年
- 2004年3月 東京証券取引所市場第二部に上場
- 2005年3月** 東京証券取引所・大阪証券取引所市場第一部に指定
- 2010年4月 (株)大電社(JQ)をTOBにより完全子会社化
- 2012年3月 海外統括会社立花オーバーシーズホールディングス社を設立
- 2012年6月 (株)高木商会と資本業務提携～持分法適用会社へ
- 2012年12月 (株)立花デバイスコンポーネント設立(ルネサスから無償で事業譲渡)
- 2014年12月 (株)高木商会を連結子会社化(81.18%)
- 2015年5月 中長期経営計画「C.C.J2200」スタート

# 主要国内子会社/売上高推移

**2010年4月  
大電社を完全子会社化  
\* 2006年資本業務提携**

＜事業内容＞  
FA機器、電子機器用部品、ネットワーク機器の販売

＜強み＞  
監視、計測、画像、センサー関連の各種商材やエンジニアリング技術

＜売上高＞ 73億円 (2018年3月期)

**2012年12月  
立花デバイスコンポーネント設立  
\* ルネサスから事業譲渡**

＜事業内容＞  
半導体、電子部品の販売及び半導体デバイスを搭載したモジュールやボードの製作

＜強み＞  
・リチウム電池用LSI、パワー半導体、通信関連機器の商材  
・モジュールやボード製作する技術

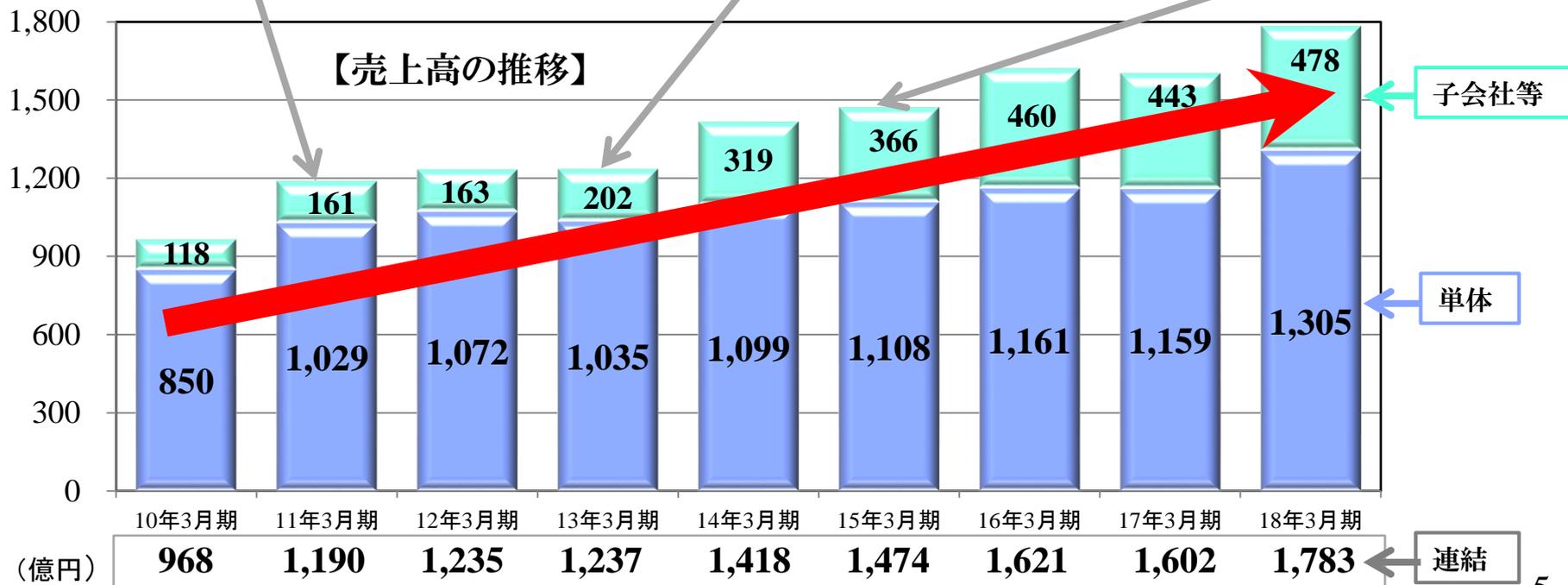
＜売上高＞ 47億円 (2018年3月期)

**2014年12月 (81.18%)  
高木商会を連結子会社化  
\* 2012年資本業務提携**

＜事業内容＞  
FA機器、電子部品及び産業用コンピューター、ネットワーク機器の販売

＜強み＞  
・コネクタ、端子台などの入出力機器  
・制御機器の需要をシステムとして取り込む営業力

＜売上高＞ 215億円 (2018年3月期)



## FAシステム事業

### ■FA機器

PLC、インバーター、ACサーボや配電制御機器さらに各種モーターの販売。



### ■FAシステムソリューション

生産設備を監視・計測・制御するシステムの構築やソリューションの提供。またロボットシステムの販売。



### ■産業メカトロニクス

放電加工機、レーザー加工機またマシンングセンターなどの各種工作機械の販売。



### ■産業デバイスコンポーネント

デジタル接続機器やコネクタ等の入出力機器 また FAパソコンやネットワーク機器の販売。



トータルソリューションで  
お客様の課題を解決



## 海外事業

主に中国やアセアンなどのアジアに半導体、FA機器、放電加工機・レーザー加工機などの産業メカトロニクス製品の販売。



## 半導体デバイス事業

規格品からユーザー仕様までニーズに合わせた半導体や電子デバイス製品の販売。さらにマイコン・ASICやカスタムLSIの設計開発。



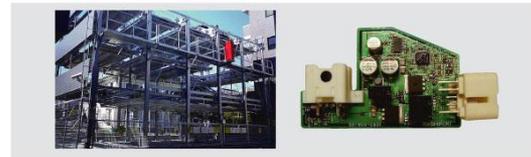
## 施設事業

工場やオフィスビル・店舗における照明、空調、エレベーターや防災設備機器。また省工に優れたオール電化製品の販売。



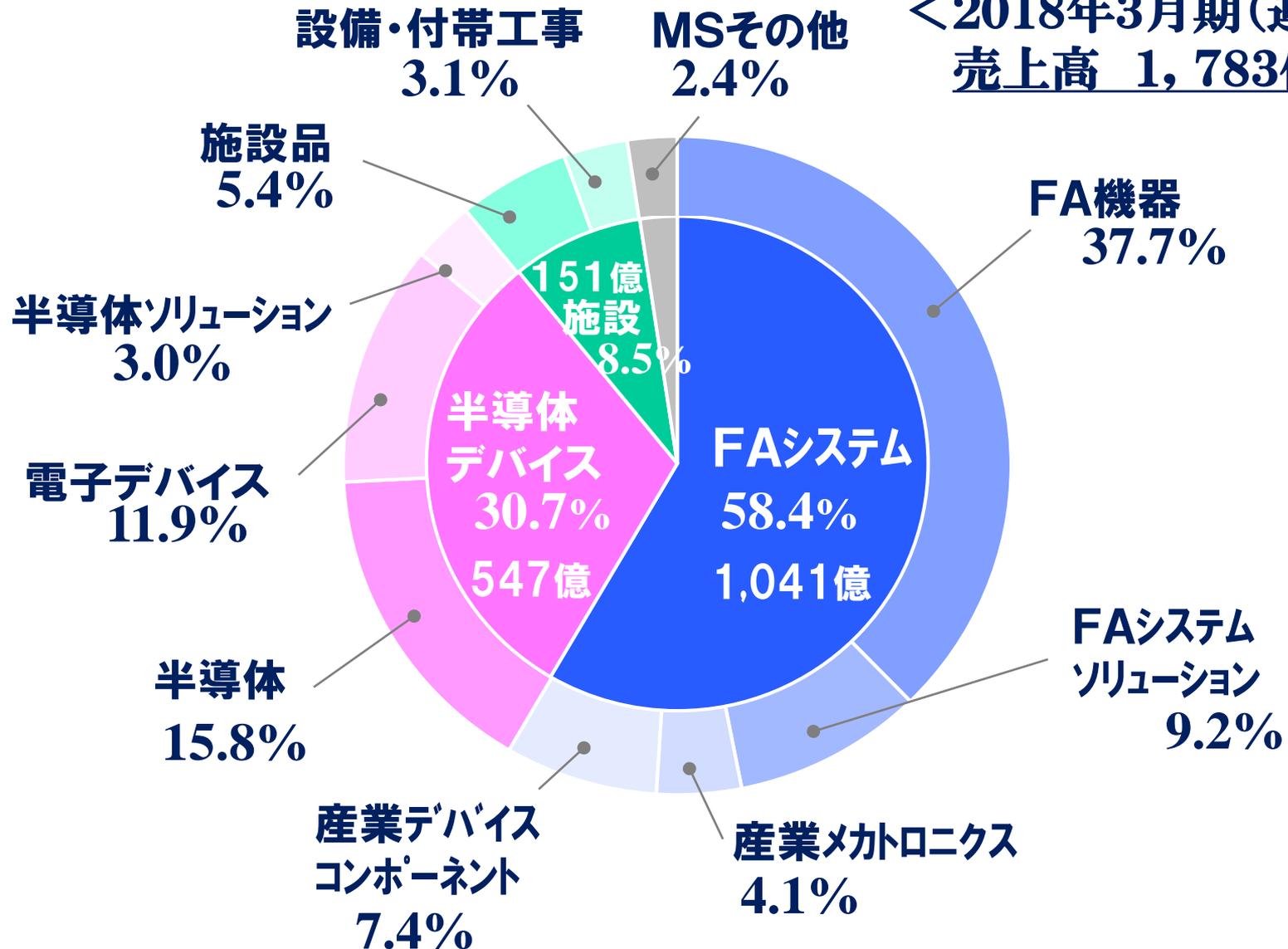
## MS事業

電子機器の基板から完成品までの設計・製造受託(EMS)と立体駐車場や鉄道車両に使用される金属部材の加工・製造受託(MMS)。



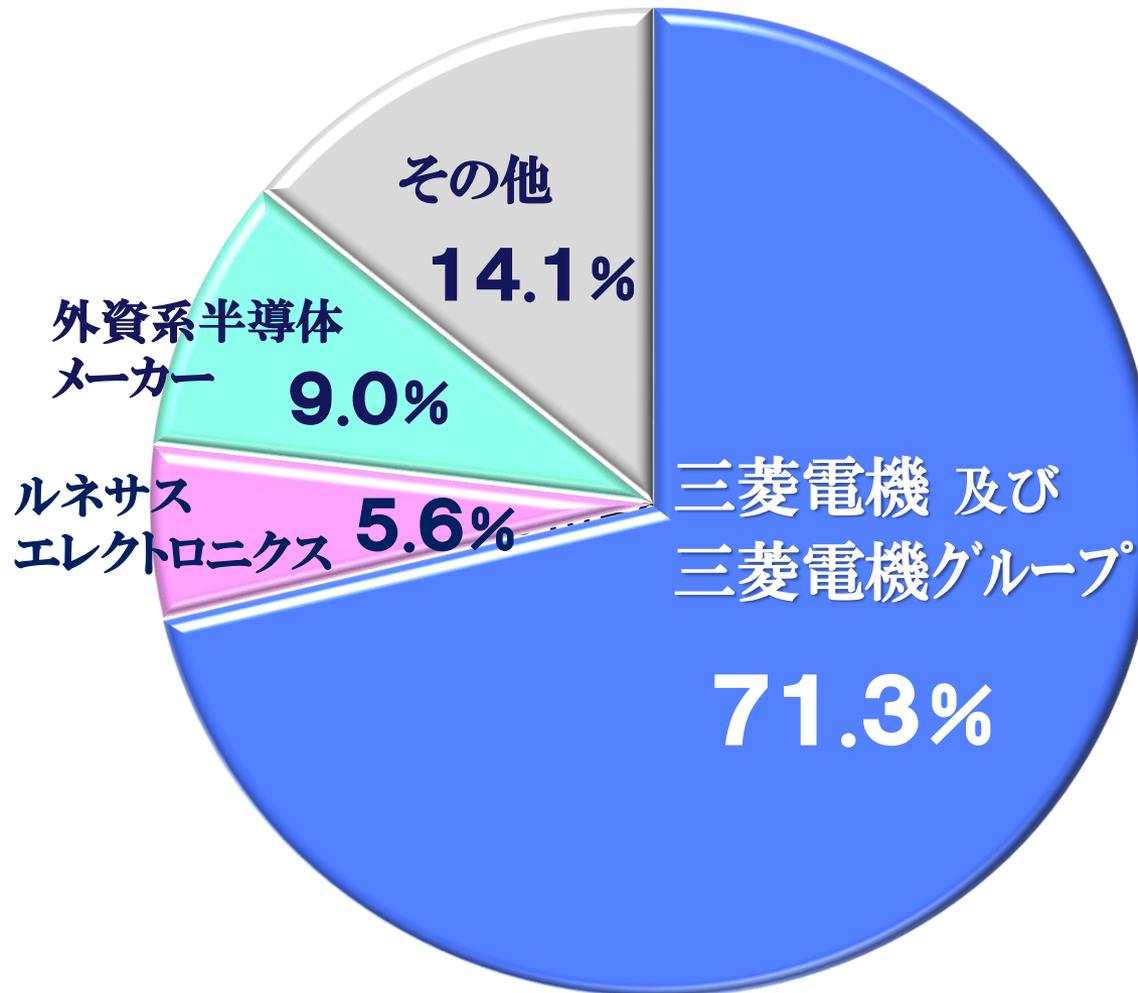
# セグメント別売上高構成

＜2018年3月期(連結)＞  
売上高 1,783億円



# 仕入先別構成比

<2018年3月期>



## 「製品」と「技術」をトータルで提供する「技術商社」

### 提案・開発力と調達力

顧客ニーズに対し、技術提案をもって応え、優れた製品と高いアプリケーションエンジニアリング・サービスをご提供

### 豊富な技術者と高い技術力

200余名の技術者が在籍、専門的な知識や最新技術・製品情報を持ち、製品開発のサポートやソリューションをご提供

### 幅広い製品をラインアップ

FA機器、半導体・電子デバイスをはじめ製造ラインの生産設備、環境・省エネ機器、ビル設備品など幅広い製品を取り扱う

# 財務状況（連結貸借対照表）

決算日末日が通常営業日  
であった場合

0.76ヶ月

(単位:百万円)

連結BS (2018年3月末)		
流動資産		94,532
現金及び預金	1.05ヶ月	15,705
たな卸資産	0.78ヶ月	11,712
受取手形及び売掛金他		67,113
固定資産		27,312
資産合計		121,845
支払手形及び買掛金他		50,389
借入金	0.11ヶ月	1,689
負債合計		55,349
株主資本		57,944
資本金		5,874
資本剰余金		6,240
利益剰余金		46,722
自己株式 (786千株 保有)		△892
その他		8,550
純資産合計	自己資本比率 53.6%	66,495
負債純資産合計		121,845

実質無借金!

2018年3月末時点

\* 決算日末日が通常営業日  
であった場合

自己資本比率  
56.8%



56.8%

# 2019年3月期第1四半期決算概要

## 【連結業績の概況】 増収増益 ～利益項目は過去最高～

～「環境」の好調さと「施策」による成果～

- ◆ 世界的な半導体業界の好調と、これに牽引された半導体・液晶製造装置関連並びに自動車関連の積極的な設備投資需要が旺盛。  
⇒主要事業のFAシステム事業、半導体デバイス事業が好調に推移。
- ◆ 中長期経営計画「C.C.J2200」の基本戦略の推進に鋭意取り組んできた事が成果に繋がった。

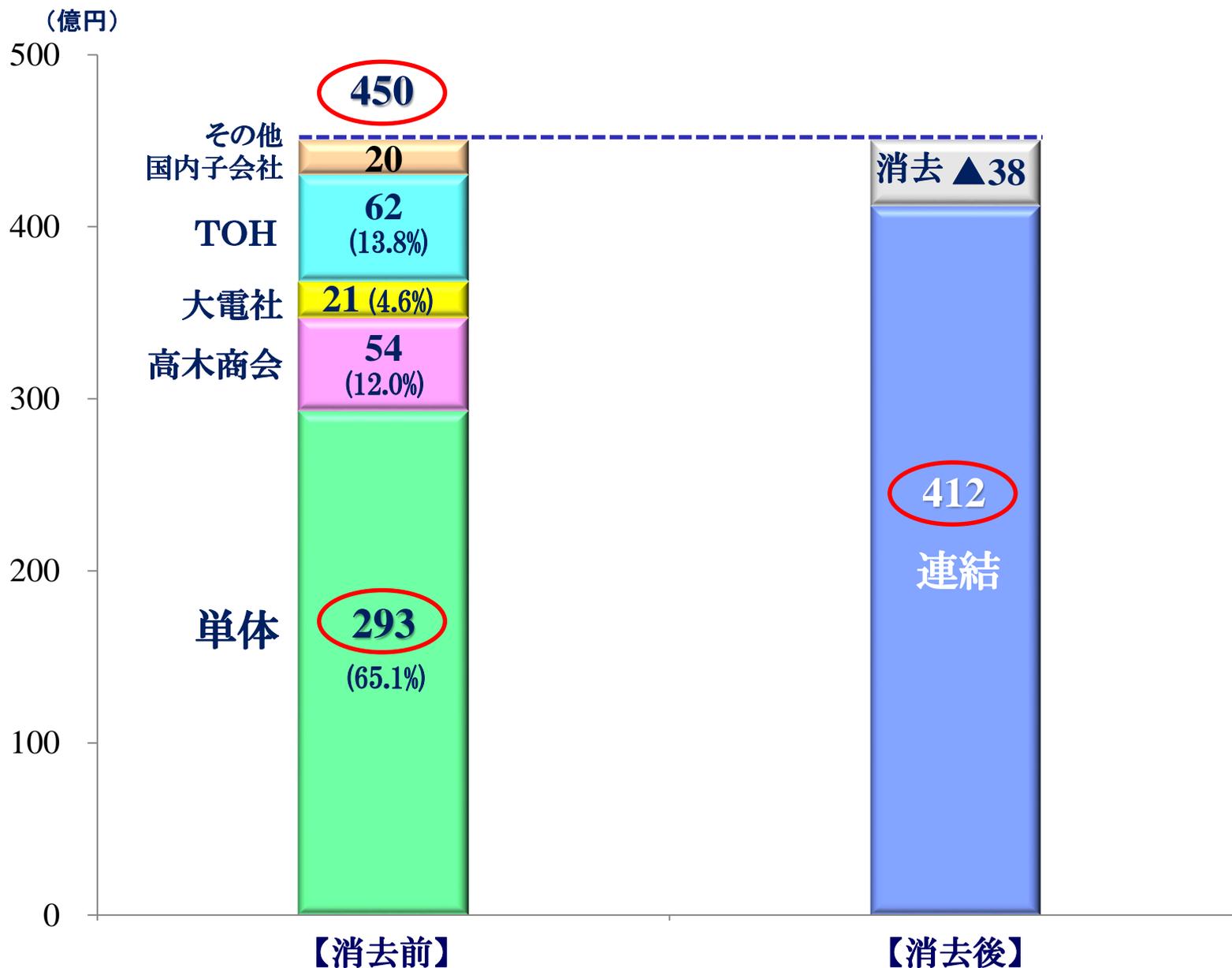
## 【連結業績ハイライト】

(単位:億円)

主要科目	2018年3月期 1Q	2019年3月期 1Q	増加額	前年同期比(%)
売上高	377	412	35.4	109.4
営業利益	11	13	1.5	113.5
経常利益	13	15	2.6	120.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9	10	1.5	116.3

過去最高

# グループ会社別の売上高



# 2019年3月期 業績予想

## 【業績予想(連結)】

売上高は2004年3月期を  
15年ぶりに更新し、過去最高

(単位:億円)

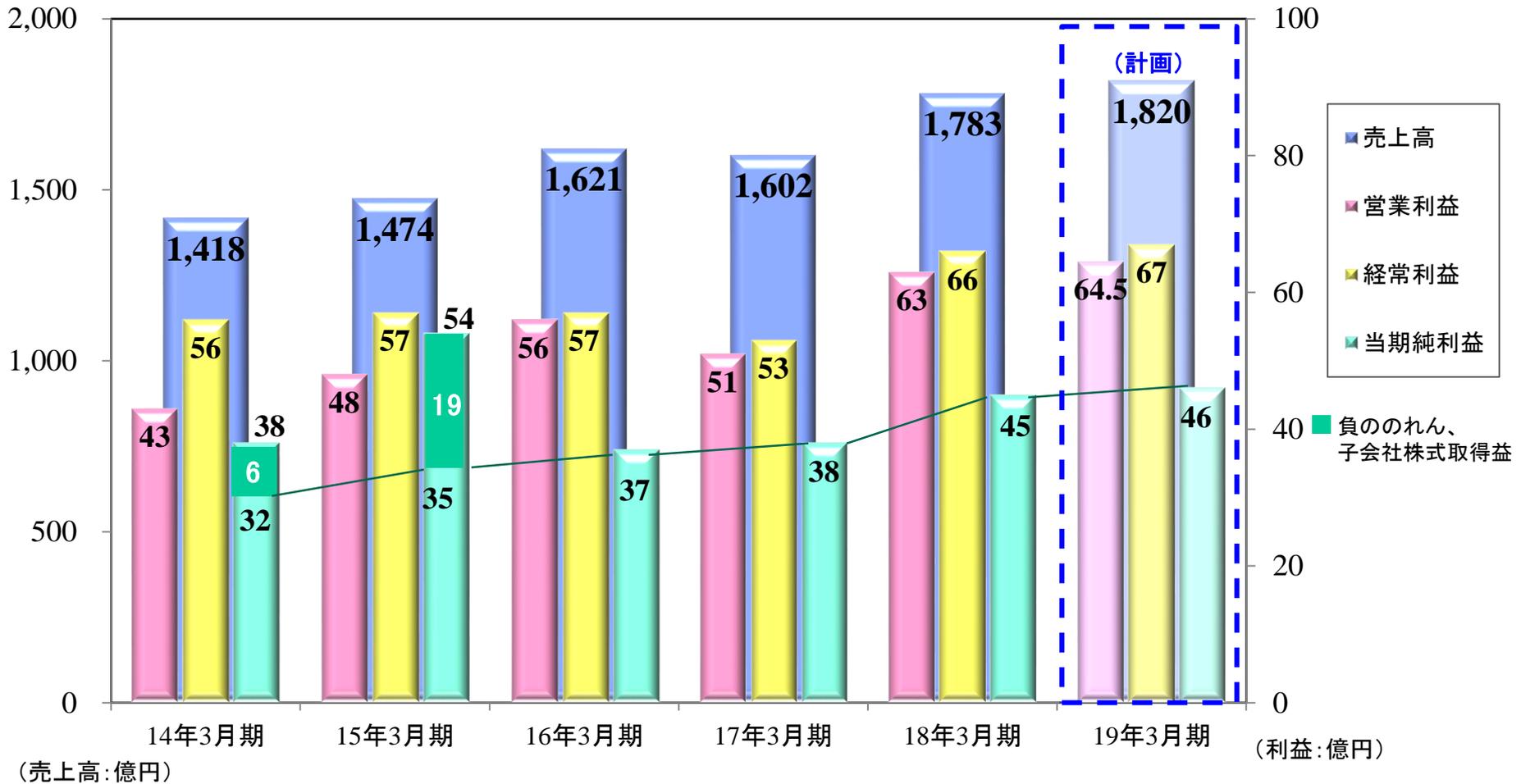
主要科目	2018年3月期	2019年3月期予想	前期比(%)
売上高	1,783	1,820	102.1
営業利益	63	64.5	100.9
経常利益	66	67	101.4
当期純利益	45	46	101.3

過去最高

1株当たり配当金	40(円)	44(円)	-
1株当たり当期純利益	179.85(円)	182.26(円)	-

# 連結業績の推移

売上高/営業利益/経常利益/当期純利益 (億円)

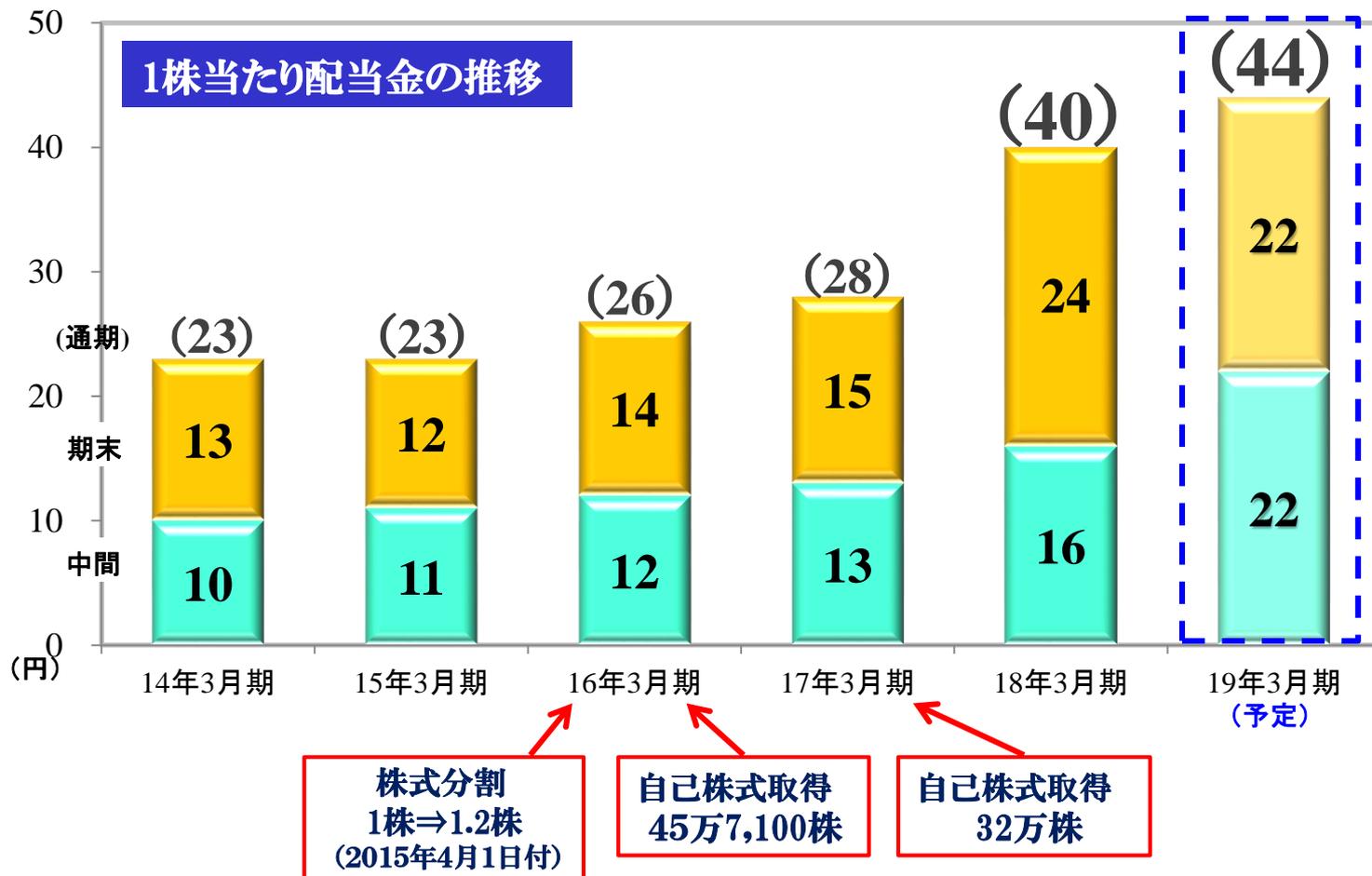


# 配当金の推移

## \* 4期連続の増配(予定)

2018年3月期 年間配当 前期比**12円** 増配の **40円**

2019年3月期 年間配当予定 前期比 **4円** 増配の **44円**



## ■導入の目的

当社株式への投資の魅力を高め、より多くの皆様に中長期的に当社株式を保有して頂く為に導入。

## ■優待制度の内容

保有株式数及び継続保有期間に応じて『クオカード』を年1回贈呈  
長期保有者は、さらに優遇(増額)  
(2021年3月末まで3年以上継続保有者に優遇)



保有株式数	継続保有期間	
	3年未満	3年以上
100株以上1,000株未満	2,000円分	3,000円分
1,000株以上	3,000円分	5,000円分

■初回は2018年3月末時点の株主様が対象  
⇒6月下旬に発送

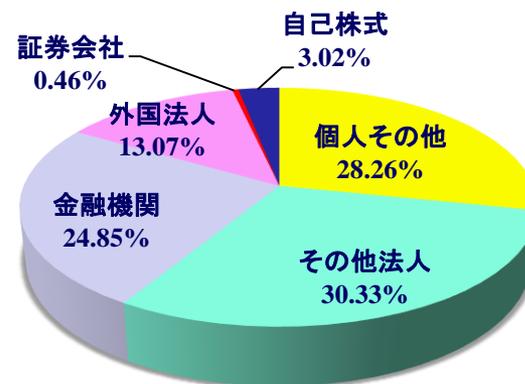
## ■株価推移(2016/9/5~2018/9/4)



■発行済株式総数 **26,025 千株**  
(自己株式786千株を含む)

■株主数 **7,038 名**

## ■所有者別株式分布状況



--2018年3月31日現在--

# 2019年3月期 取り組み方針

## AI・IoT時代を迎え、「M2Mシステム技術」に 強い立花エレクトックグループを目指す

「M2M」とは、『**機械間通信**』

製造現場には、多くのロボットを含む製造ラインや設備機械が存在、  
これらを**機能的に連動させて生産性の向上を図る**

\*「M2M」実現のための取り組み施策

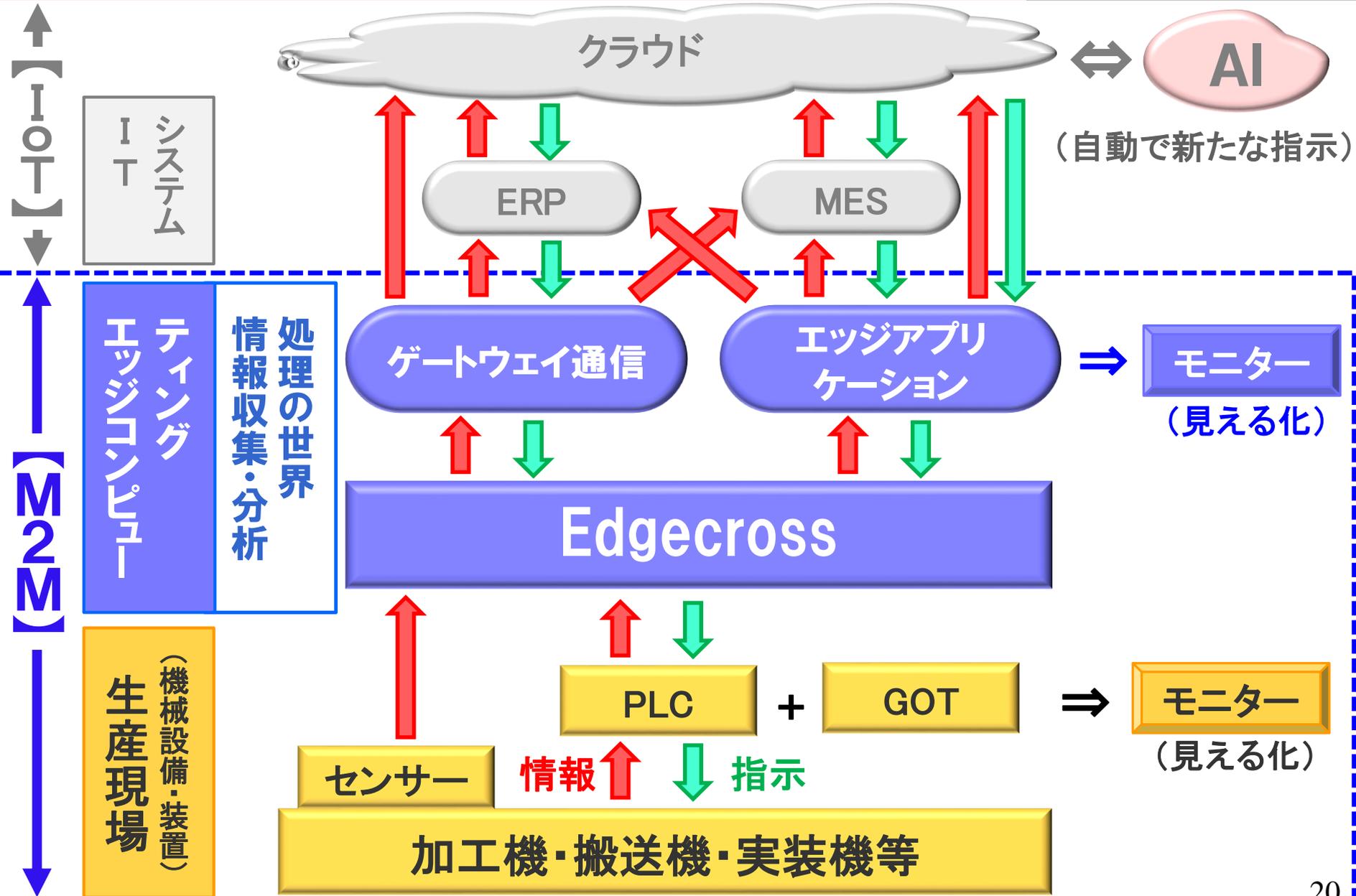
- ▶ 産業用ロボットを活用したシステムソリューションへの注力
- ▶ エンベデッド等IoT関連の品揃えの充実
- ▶ 産業分野での「M2Mシステム技術」の習得と確立

キーワード

『**コネクティング**』

- 新旧の機械、装置をコネクティング
- 異なる通信規格をコネクティング

# M2M「機械間通信」の概略



## 立花エレテックグループとして 大規模展示会に出展

### 関西工場設備・備品展

【日程】 10月3日～5日

【会場】 インテックス大阪

“立花エレテックグループが「工場のお悩み」を解決します。”

### CEATEC JAPAN 2018

【日程】 10月16日～19日

【会場】 幕張メッセ

“立花エレテックグループが「近未来工場」をコーディネートします。”

### Embedded Technology 2018

【日程】 11月14日～16日

【会場】 パシフィコ横浜

“立花エレテックグループが「つなぐ」技術でM2Mをサポートします。”

## ■立花エレテックグループの保有技術を結集し、更に高めていく。

- 立花エレテック ⇒ **制御・監視技術**
- 高木商会 ⇒ **組込技術**
- 大電社 ⇒ **画像処理技術**

## ■2021年に「**M2Mシステム技術に強い**」立花エレテックグループの完成を目指し、前述の展示会に4年連続で出展する。



### <M2Mによる製造業向け段階的アプローチ>

- 2018年 ) 「工場レベル」のスマート化
- 2019年 ) 「工場レベル」のスマート化
- 2020年 「企業レベル」のスマート化
- 2021年 「企業間連携」のスマート化

# 人基軸経営

社員が幸せを感じている会社は発展する

人は幸せを感じられる間は、無理難題にも挑戦し成長を続ける

人は難しい課題を乗り越える事が出来た時に、感動・感激してやりがいを感じる

社員がやりがいを持ち、成長して力を発揮すれば、会社発展の原動力になる

会社が発展していれば、難しい課題を与え続ける事が出来る

会社を発展し続ける事が、経営の仕事



**「商社の価値」は「売る力」の高い会社**  
徹底した営業力強化と体質改善の推進で「売る力」を高める



**「C.A.P. UP1500」**

\*2008年スタート

「売る力」をつける



「営業力」と「マネジメント力」の強化

社員一人ひとりが実行力、実現力を高めること  
で組織として最大の力を発揮することを目指す

業務改善・効率化  
費用削減意識を高める

南大阪ビル  
(立志館)



## 「人間道場（立志館）」

目的：**人間力の醸成**

社員OBなど“人生の先達”として  
講師に招き、経験談などの  
講演や対話を実施



知識研修後、会社の費用で  
“飲みニケーション”

2008年から、延べ529回開催、9,590名参加



# 中長期経営計画『C.C.J2200』

2021年の創立100周年を見据えた2015年を初年度とする  
6カ年の中長期経営計画『**C.C.J2200**』をスタート

「変わる」こと「挑戦する」ことで  
さらなる「飛躍」に向け、新たな歩みを始めます

**C**hange <変革>

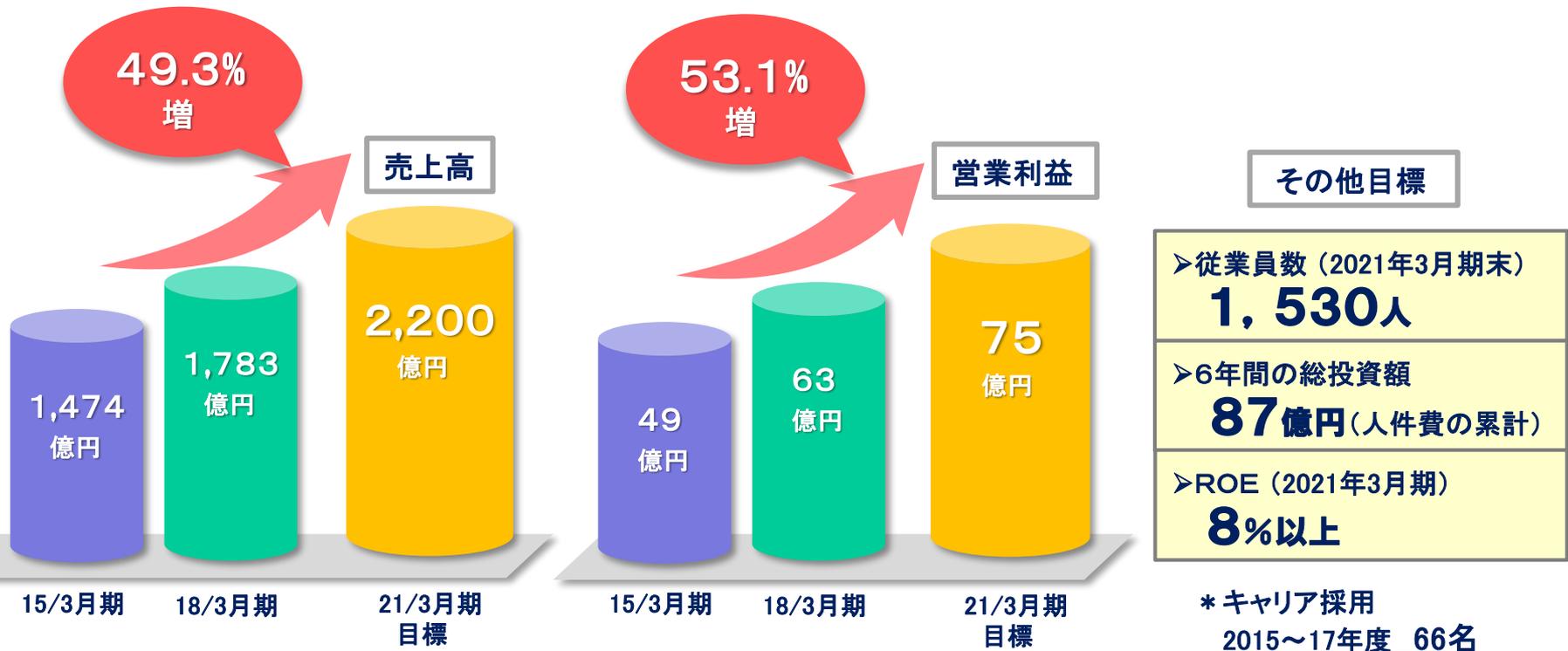
**C**hallenge <挑戦>

**J**ump-up <飛躍>

連結売上高 **2,200**億円

# 『C.C.J2200』の目標

## 『確固たる基盤を持った 電機・電子の一大技術商社』を目指して



# 『C.C.J2200』基本戦略

2016⇒2017年3月期  
成長基盤の整備

2018年3月期  
計画を着実に実行

2019⇒2021年3月期  
成長を加速～持続的成長へ

## ① 地域のサービスレベルの均一化

- ✓ FAシステム事業における有望分野 (センサー・ロボット) への注力
- ✓ 施設事業、産業メカトロクス部門を中心に首都圏・中部圏で人材増強を図り、市場開拓へ注力

## ② 半導体デバイス事業をグローバル事業として強化

- ✓ 外資系半導体ビジネスを第三の柱へ強化
- ✓ 海外技術サポート力の強化
- ✓ 新規顧客への拡販注力

## ③ 自社保有技術によるシステムソリューションビジネス強化

- ✓ 産業用ロボットシステムビジネス推進
- ✓ IoT/M2Mによる次世代製造システムに必要な技術の蓄積とIoT関連の品揃えの充実

## ④ 施設事業を第三の柱として主要事業化

- ⑤ 子会社とのシナジー効果アップ
- ⑥ 海外ビジネス強化
- ⑦ CSR経営の推進

売上目標

**2,200** 億円

**ご清聴いただき、誠にありがとうございました。  
今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。**

**お問い合わせ先**

**(株)立花エレテック 経營業務部 広報・株式業務課**

**Tel: (06) 6539-2718 Fax: (06) 6539-8821**

**<http://www.tachibana.co.jp/>**

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となることをご承知おきください。